

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1  
売れる農林水産品・加工品づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

畜産課長 原正三

電話番号

0852-22-5132

事務事業の名称	畜産技術センター研究費	
目的	(1) 対象	県内畜産農業者
	(2) 意図	畜産に係る試験研究により得られた技術を畜産農家へ提供することにより、飼養管理技術の向上と所得向上を図る。
事業概要	・牛の繁殖管理、肉用牛の改良及び産肉能力向上、乳用牛の飼養管理、草地飼料作物や環境保全に関する技術等の試験研究、調査指導を行う。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	終了した試験研究課題総数のうち、その成果が「普及」又は「目標達成」と評価された課題数の割合	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義	その成果が「普及」又は「目標達成」と評価された課題数/終了した試験研究課題総数	取組目標値						
			実績値	100.0	100.0	100.0			
			達成率	-	100.0	100.0	-	-	%
2	指標名		目標値					%	
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	172,942	184,040
うち一般財源 (千円)	62,067	69,922

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・課題解決型研究課題4題、基礎的研究課題2題、国等の競争的研究資金による研究課題2題を実施。
- ・うち課題解決型1題、基礎的研究1題がH29年度で終了。その成果は、農林水産技術会議において、「普及」及び「目標達成」と判定。
- ・成果の普及対象となる畜産農家は、肉用牛925件、30,247頭、乳用牛109件、10,983頭。(H30.2.1島根県家畜飼養状況調査)
- ・平成29年度中に、肉用牛が995頭、乳用牛が448頭増加。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

平成29年度終了課題の主な成果

- ①水田における二毛作体系の提示
- ・稲収穫後の水田において、飼料用麦と牧草の混播栽培体系を提示
  - ・飼料用麦の活用方法として、発酵粗飼料化して給与することで十分に活用できることを確認
  - ・麦の栽培が盛んな出雲地区の畜産農家において活用

- ②ゲノム育種価を活用した種雄牛の造成
- ・ゲノム育種価の予測精度を向上させるために、約15,000頭のDNA解析と分析を実施
  - ・従来の育種価とゲノム育種価を併せて活用し、優秀な種雄牛の早期造成方法を確立

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

- ・しまね和牛の遺伝的能力の改良の遅れ
- ・家畜の省力管理や衛生管理の不足(不備)
- ・一部生産者は家畜や畜産物の生産性や品質が全国平均よりも劣る
- ・県内産飼料の安定生産と利用拡大が停滞
- ・畜産物のブランド力が低い

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・全国に通用する高能力種雄牛が継続的に造成できていない
- ・生産性を向上させる技術の活用及び導入の遅延
- ・高齢化の進展や労働力不足による管理不良
- ・輸入飼料価格の高止まり
- ・特徴ある畜産物の生産とそのPRができていない

### ③原因を解消するための「課題」

- 課題解決のため、次の技術に係る調査・研究・開発が必要
- ・しまね和牛の遺伝的能力を向上させる育種改良技術
- ・家畜の事故等を減らす飼養管理技術
- ・家畜の生産性を向上させ、安全で高品質な畜産物を生産する技術
- ・県内産飼料の活用による家畜や畜産物の安定生産技術
- ・畜産物のブランド力の向上に資する技術(特徴ある畜産物の生産技術、PR手法等)
- 研究成果の生産現場への普及定着を強化することが必要

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・現在実施中の試験研究に継続して取組み、課題の解決に資する技術を確立する。
- ・特に、戦略的課題である「しまね和牛の美味しさ指標の開発」や「集落放牧の推進に必要な技術開発」を産官学連携により進める。
- ・また、政策的なニーズを反映し、「稲WCSや未利用資源等の県内産飼料利用による生産性向上技術」や「しまね和牛の遺伝的能力改良技術」の開発を強化する。
- ・研究成果は研究報告や畜産技術レポート等にまとめ発信するとともに、研修報告会を積極的に開催し、関係機関・団体の指導者や生産者への技術紹介、指導を強化して生産現場での普及を加速させる。